

第17回 菱肥会全国連合会総会開催

去る11月21日、経団連会館国際会議場（東京・大手町）に於いて第17回菱肥会全国連合会総会が開催された。本来であれば2020年に第16回総会が開催される予定であったが、コロナ禍の為に中止となり5年振りの開催となった。全国の菱肥会会員及び賛助会員メーカー、業界関係者、報道、関係省庁、三菱商事など約170名の参加を得て盛大に挙行された。

まず挨拶として三菱商事(株)環境素材・化学事業本部 松浦本部長より、本年は昭和39年の三菱会（昭和50年に菱肥会に改名）発足から数えて60年の節目であり沢山の会員各位にご臨席頂いた事、日頃の肥料取扱いに関する謝辞があった。続いて菱肥会全国連合会会長・三菱商事(株)農業ソリューション室 宮澤室長からは関係各位への謝辞、2019年に三菱商事(株)肥料部から農業ソリューション室へ改名したこと、肥料原料トレーディング事業を2020年10月に当社へ業務移管したが、今後も三菱商事が持つ地政学的な情報や知見を持ってこれからも当社を支援していくとの報告があった。菱肥会全国連合会理事長の豊田肥料(株)豊田相談役からは「食と農だけではなく環境や健康の架け橋」になる事がこれからの農業ビジネスの可能性に秘められていること、今後の農政の方向転換の必要性を述べられた。



続く議事では決算報告、事業報告、菱肥会福祉制度の説明を行い、当社常務取締役営業本部長 石橋大作から「食と農の架け橋 Ver.7」V-2026事業計画（1）アグリサービスの拡充、（2）研修の充実についての発表を行った。

会員褒賞では感謝状を受彰70社の代表として山米商事(株)小林社長が受け取られ、地区別報告では各支部の代表より下記内容の報告と意見が述べられた。

- ・北海道菱肥会（(株)日の丸産業社 千葉社長）…北海道の天候について。8月は22日間も夏日続く高温となった。平均収量104%、平均反収579キロだがコメ農家の体感は100を切る感覚。また根菜類も良くなかった。菱肥会は情報交換の場としたい。
- ・東部菱肥会（宮本商事(株) 宮本社長）…高温少雨の異常気象に見舞われ全般的に不作で肥培管理技術指導には厳しい状況であった。化学肥料の使用は環境と調和している事が前提であるが、経済的に持続可能な農業生産に資する技術であり、それを正しく提案することが肥料商の本来の仕事である。
- ・中部菱肥会（日本オーガニック(株) 水谷社長）…運送業界の2024年問題について。同社がある静岡県は立地を生かして関東から近畿までの広い範囲をリレー輸送や中継地輸送でカバーする事ができ一大物流拠点になる可能性を秘めている。肥料の物流はバラ積が多く荷役時間や待機時間が長くなる事が自分事として喫緊の課題である。
- ・西部菱肥会（小浦産業(株) 小浦社長）…西部菱肥会の第一回開催の歴史について。また菱肥会に期待する事として三菱の組織力、組織を育てていく力を発揮し、西部菱肥会や全国菱肥会の更なる発展をけん引して欲しい。
- ・九州菱肥会（(資)宮原商店 宮原代表）…九州地区の天候と作況に関する報告。機能性の高い肥料の普及を図り、形だけではなく美味しさを伴う付加価値の高い農産物を生産することで肥料商の価値を高める事に繋がる。

休憩を挟んだ後、来賓挨拶で経済産業省製造産業局素材産業課 濱坂企画官、農林水産省農産局技術普及課 吉田課長より日頃の行政の取り組みに対する理解への謝辞をいただき、記念講演では『世界食料危機～中国の動向と日本の対応～』と題して、(株)農林中金総合研究所理事研究員 阮蔚（ルアン ウエイ）氏より①人災による世界食料危機②終焉を迎える欧米の穀物供給過剰③中国の輸入増による世界穀物貿易構造の変化④食料安全保障強化の時代がきた、の4点について資料をもとに講演いただいた。

（次ページへ続く）

(前ページより続く)

最後に当社代表取締役社長 菅生健史より、日頃の弊社肥料の取扱いについての謝辞と、「農業、肥料業界は保守的で伝統と歴史に守られている反面、技術革新の影響が低かった産業である。昨日までの常識、既成概念や事実が明日になると全く違う物になる事が肥料業界でも起こってくるのではないかと想像する。伝統や歴史を一気に変える事はないが、変化に対応しつつ本会や会員の皆さまの発展、肥料業界の発展に寄与していきたい」との挨拶にて、本会は閉会。

閉会後は同会館の経団連ホールにて記念パーティが盛大に催された。コロナ禍では懇親の場が制限されてきたが、こうして一同に会して菱肥会を開催し対面で会話ができる事の大切さを改めて知る機会でもあった。

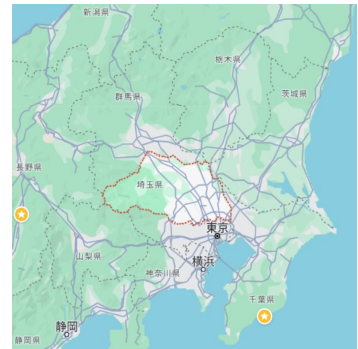
～地元紹介 翔んで埼玉！！～

絶賛放映中の映画「翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～」で話題沸騰中!?の私が住まう埼玉県にピックアップし案内させていただきます。皆様は「埼玉県」で何を思い浮かべますか・・・

海ない(川はある)・空港ない(実は民間飛行場はある)どこかで聞いたことがあるような歌詞のイメージがありますがほぼ等しい町。それが埼玉県です。実際に日本のどこにあるのかと説明しますと、埼玉県は日本の関東地方に位置する県で県庁所在地名は国内唯一のひらがな名称のさいたま市です。関東地区の神奈川県以外1都4県に隣接しています。

人口は全国第5位、面積は第39位で人口密度は東京、大阪、神奈川に次ぐ第4位。2015年に総務省が調査した昼夜間人口比率では、88.9%と昼間の人口流出が全国1位でベッドタウンの印象が強い首都近郊の県になります。

日本の海なし県8つの内一つで港や臨海工業地帯を有しておりませんが自動車関連企業から小売り関連企業など多種多様な企業が本社を構えており、首都近郊で昼夜逆転のイメージがありますが実は農業の盛んな地域でもあります。特にネギ・ホウレンソウ・さといもなど産出額が全国3位以内に入る農作物もあり埼玉県は人口も多く企業も多く農業もでき海がないのが特徴です。農林水産省が公表している資料で2019年度における農業産出額は全国第20位。県内では河川が多く存在し面積に対する河川の割合は水の都と呼ばれる大阪府を抜き、全国で最大の約3.9%。川幅日本一を誇る県として河川の恩恵を受け近郊農業が盛んな地域でもあります。



さといも (産出額第1位)



ねぎ (産出額第1位)



ほうれんそう (産出額第1位)



こまつな (産出額第2位)



かぶ (産出額第2位)

埼玉県産出額
上位野菜 (県HPより)



鴻巣市と吉見町にまたがる川幅2,537m
川幅日本一標識 (桶川市HPより)

と、ここまではあまり認知されていないような県情報でしたが観光名所、遊びスポットも多数あります。代表的なのは鉄道博物館、飯能ムーミン村、秩父地区(三峯神社)、氷川神社(武蔵一宮)、小江戸川越、さきたま古墳群、日本最大のショッピングモール、グルメ(わらじかつ、草加せんべい、百万石まんじゅう)など。観光・グルメ・ショッピングと幅広く魅力たくさんな県、それが埼玉県です。皆さんも通り過ぎるだけでなく一度、足をお運び頂き埼玉県の魅力を感じてみてはいかがでしょうか。(特販部)

これから忘年会・クリスマス・お正月と続きますが、暴飲暴食には要注意ですね。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp

URL http://www.mcagri.jp